２７中政企第４７０号
平成２７年６月２３日

２０２０年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた取組方針について

１　基本的な考え方

○ 東京大会の開催を、単なる一過性のスポーツイベントに留まらせるのではなく、区民の長期的な健康づくり・スポーツ活動の推進に繋げる。

○ 区民の国際理解の推進や、外国人観光客の誘致等による地域経済の活性化を図り、持続的なまちづくりのための契機とする。

○ 区の取組のみでなく、区民、町会・自治会、区内団体、商店街等の様々な主体による取組を推進し、区全体による機運醸成を図る。

２　取組の領域

（１）オリンピック・パラリンピックに係る区全体による機運醸成
（２）健康づくり・スポーツ活動の推進
（３）国際理解の推進
（４）外国人観光客の受入環境の整備

３　目標とする姿

（１）オリンピック・パラリンピックに係る区全体による機運醸成

○ 区民、町会・自治会、区内団体、商店街等の様々な主体が、オリンピック・パラリンピックに向けて、自主的に機運醸成の取組を行っている。

○ 区民が、オリンピック・パラリンピックに向けた様々なまちの動きを感じることができ、それにより機運が高まっている。

（２）健康づくり・スポーツ活動の推進

○ 区民における健康づくり・スポーツへの理解や機運が高まり、健康づくり・スポーツ活動が日常化され、定着している。

○ 障害者スポーツの認知度が向上し、それを支える人材が育成されている。

○学校での取組や、保護者の理解促進により、児童・生徒の体力が向上している。

○ スポーツ・コミュニティプラザが、地域の交流拠点として、区民のスポーツ活動と健康づくりを結びつけている。

○ 誰もが利用できる、健康づくり・スポーツのインフラが整備されている。

（３）国際理解の推進

○ 言語、慣習、食文化、歴史などの国際理解・異文化理解が進み、国際的な感覚・視点を持った児童・生徒、地域人材が育成されている。

○ 国際交流や、在住外国人との交流が進むことで、外国人が身近な存在となり、在住外国人が地域に溶け込んでいる。

（４）外国人観光客の受入環境の整備

○ 中野のサブカルチャー、食文化、生活感の溢れる街並み、旧跡など外国人旅行者に魅力的な観光資源を発掘、活用し、情報発信をすることで、海外での認知度が向上している。

○ 外国人観光客が、言語や慣習等の壁がなく、中野のまちを楽しめるインフラや商業環境、人的資源などの受入環境が整備されている。

４　主な取組

別紙のとおり